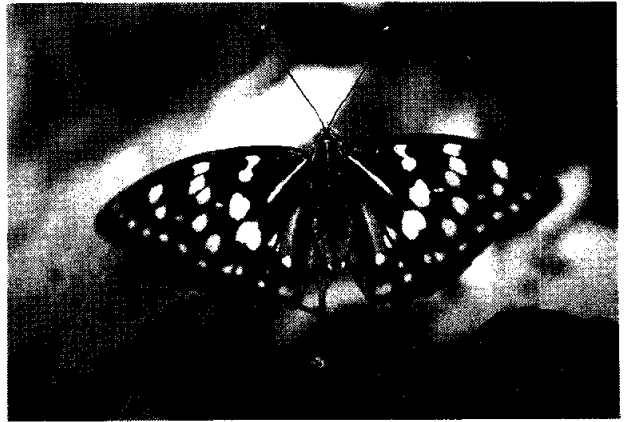


オオムラサキの里から

つぼうち じゅん
 1958年札幌市生まれ
 北海道栗山町教育委員会
 ふるさと生きものふれあ
 いの里専門員
 自然を広く紹介し、その
 普及啓発が主な仕事
 専門は昆虫生態学（特に
 蝶）

坪内 純

栗山町ふるさといきものふれあいの里ファール
 の森が（平成四年六月）オープンして以来、町内外
 から実に沢山の方々が見学に来て下さった。特に土
 日祝日になると多い日で約四〇〇名の見学者で小さ
 な観察飼育舎は押しあいへしあいの大盛りようで、
 汗をかきかき解説や質問に答えていたものだが、五
 里霧中で日々を送るうち、美しく色づいていた御大
 師、山の木の葉も落ちて、気がついたら虫達の季節
 も終わっており、生きものの里も今年度の見学者は
 のべ二〇〇〇〇人。最初の年としては、まずまずの
 反響で、春まで休館となり胸をなでおろしている。
 老若男女をとわず人々の間で自然や生き物に対する



栗山町ふるさといきものふれあいの里ファール
 の森にてオオムラサキ（オス）ファールの森飼
 育舎にて羽化 1992. 7月

興味や感心が高まっている事を、改めて感じた。
 ところで今の時代、物が豊かで便利な世の中にな
 ればなる程、人はそれと逆行したものを追い求める
 もので、ここ数年でレジャー型体も変化して来てお
 り、家族で自然を求めて滞在型のオートキャンプが
 大流行している。都市化が進み人々の生活から緑が
 なくなっていくほど、無意識のうちに自然を
 追い求めるもので、物が豊かで便利な世の中になれ
 ばなる程、それとは逆行した生活を見直してみたく
 なるものだ。しかし、便利な生活に慣れすぎてしまっ
 た人々は、全くの手付かずの自然の中では、どうす
 る事も出来ない。今やキャンプ場では、きれいなト
 イレやシャワー室があり売店では手ブラで来てもキャ
 ンプ用具一式レンタルも出来てきれいな売店では何
 でも揃っている。電源コードをマイカーのプラグで
 つなげれば電気もつき、家の中と殆んど変わらない
 便利さで屋外生活を楽しめる。この様なオートキャ
 ンプ場が悪いとは思わないが、大流行するのも、き
 れいにかられた芝と一部コンクリートでかためた車
 置き場、夜通し電気も通るキャンプで、つかの間、
 自然体験を満喫した気分を味わう。心身共に軟弱
 になった現代子を鍛えるため、親から離し自然体験
 学習キャンプも今や盛んとなってきているが一時的
 な体験であり、例えば英語を習っても話さなければ
 忘れる様に、その場、その場の一時的対応で、あれ
 は子供にとっても迷わぬ事であろう。金と時間を
 ついやし、せっかくの貴重な体験を積んでも一部の
 子供にとっては意味もない。今や自然でさえも金で
 買う時代になったのだろうか。

て四季折々のたよりを身近に実感できるふるさととの山である。発見は昭和六十年夏、栗山町理科郷土読本「栗山の自然をさぐる」作成のための調査中、高橋慎氏によりオオムラサキの生息が確認された。それを契機に御大師山の自然活用をさまざまに自然教育活動が活発となってオオムラサキの会、栗山植物同好会、御大師山を愛する会、おつ鳥クラブ、ホテル救援隊なども発足。また商工会議所青年部、栗山青年会議所、まちづくりサークルも自然を大切にした提言も多く、栗山町長期計画でも『蝶と緑の里』づくり構想とした中心地の山である。その後の調査で御大師山にはオオムラサキの食樹エゾノキ（幼虫の食べる木）が実は一本しかない事が判明した。このままでは、いつ絶滅しても不思議でない。そこで立ち上がったのがオオムラサキの会で、『二十

年後オオムラサキの飛び交う森に』と始まったエゾノキの里親制度（苗木の育成・植樹）など、各会の協力を得、行政と一体となった生息地復元事業が進められている。もう一つの生息地は滝下地区である。栗山の南と北にのみ生息地が知られているのも不思議で、実はその生息集団は全く別々の小集団であり交流もないのである。その根拠は成虫の斑紋が違うので別亜種（種以下の変種）として区別出来るほどである（未発表）。

いずれの地区に共通して伝えることがある。幼虫の食べる木（エゾノキ）の幼木が生育していないのである。いわゆる世代交代がなされていないのである。このままでは生息していけなくなる。自然の摂理とはいえ、今後数百年後には姿を消すことは確実であるだろう。

今、地球上にある自然物は、何十億年もかかり出来上がってきた生きた情報集団である。これを私た

ちの手で世から消してよいはずがない。自然の摂理により滅びても、私たちがその速度を早めてはいけなないのである。すでに大自然の反撃が地球上各地ではじまっている。そして致命的なしっぺ返しがかかるまで解からないのかも知れない。ある一種の絶滅を問題にするのではなく、自然物への軽視、無視、そして心のあり方が問題視しなければなるまい。今、何が大切か、優先順位を間違えると、それは私たち人類の生存無視へと発展するのである。

仕事柄、緑にふれている事が多い私であるが、大自然の中に身を置いた時、五感をとおして情報が伝わる。そして心が洗われる思いがするの、私だけではあるまい。自然の浄化作用は、私たちの心の汚染まで取除いてくれるのである。

栗山・ファールルの森に集まる子ら



虫好き いまいき

世話、観察に熱中

「研究を」と夢ふくらめます

【栗山ファールの森に、子供たちがのびのびと自然の中で遊んでいる。】
呼吸がけられ、成長しては、虫好きを毎日観察している。自然発露的のグループができた。観察がラジカメのカメラをしたり、エサをえたり観察したり、子供たちは大忙し、なには見守りの協力を要する子もいる。

ファールの森は、四ツ子の子供たちと、六に子供たちに出す。「虫目撃情報」は、虫好きを毎日観察している。自然発露的のグループができた。観察がラジカメのカメラをしたり、エサをえたり観察したり、子供たちは大忙し、なには見守りの協力を要する子もいる。

栗山の森に、子供たちがのびのびと自然の中で遊んでいる。呼吸がけられ、成長しては、虫好きを毎日観察している。自然発露的のグループができた。観察がラジカメのカメラをしたり、エサをえたり観察したり、子供たちは大忙し、なには見守りの協力を要する子もいる。